

哲学堂公園再生整備基本計画(案)について

中野区の新たな都市観光の拠点として、歴史と文化の観光拠点整備を行うため、平成29年3月に「哲学堂公園及び哲学堂公園周辺都市観光拠点整備計画」を策定した。

本計画における主要な整備内容の一つである哲学堂公園の再生整備について、基本計画(案)をとりまとめたので報告する。

1. 内容

(1) 場所：中野区松が丘一丁目34番 哲学堂公園

(2) 面積：52,494.08 m²

(3) 基本計画(案)の概要

・哲学堂77場の整備

東京都名勝指定範囲の中心である哲学堂77場を、文化財的価値の保存の観点から修復、復元を行う。

・学習展示施設の整備

哲学堂公園の魅力を高め、哲学堂77場や円了哲学への理解増進等を促す施設として、学習展示施設を整備する。

・公園施設の整備

哲学堂77場の周辺区域は空間的な調和を図り、哲学堂公園の価値・魅力を高めるため、施設改修等を行う。

ほか、哲学の庭の活用、ユニバーサルデザイン対応、情報提供・ソフト方策などにより、歴史・文化の観光拠点として哲学堂公園の価値・魅力を向上させる。

※基本計画(案)については別紙のとおり

2. 国指定名勝について

哲学堂公園については、平成21年2月に東京都名勝の指定を受けたことに伴い、平成24年3月に「哲学堂公園保存管理計画」を策定し、現在、同計画に基づいて保存修復を継続している。

この度、哲学堂公園の観光資源としての価値を更に高めるため、井上円了没後100年となる平成31年(2019)年を目途に国指定の「名勝」を目指す。

(参考) 東京都内の国指定名勝

(指定年順)

	指定年	名 称	種 別	管理者・所有者
1	1952	旧浜離宮庭園	特別史跡・名勝	東京都
2	1952	小石川後樂園	特別史跡・名勝	東京都
3	1953	六義園	特別名勝	東京都
4	1978	向島百花園	史跡・名勝	東京都
5	1979	旧芝離宮庭園	名勝	東京都
6	2006	旧古河庭園	名勝	東京都
7	2008	旧朝倉文夫氏庭園	名勝	台東区
8	2011	殿ヶ谷戸公園	名勝	東京都
9	2011	伝法院庭園	名勝	浅草寺
10	2012	小石川植物園	名勝	東京大学
11	2017	横山大観旧宅及び庭園	史跡・名勝	(公財) 横山大観記念館

※ 国指定文化財分類の記念物の中で、重要なものを「史跡」「名勝」「天然記念物」と呼び、その中で特に重要なものは「特別史跡」「特別名勝」「特別天然記念物」と称する。(文化財保護法第109条)

名勝は記念物の中で、庭園・橋梁・峡谷・海浜などの名勝地で、わが国にとって芸術上又は鑑賞上価値の高いものを称する(文化財保護法第2条)。

指定の種別については、国の文化審議会において決定する。

3. 説明会・意見交換会の実施

基本計画(案)の説明会・意見交換会を下記のとおり行う。

日 時	場 所
10月18日(水) 19:00~20:30	中野区役所 7階会議室
10月19日(木) 14:00~15:30	哲学堂公園 弓道場会議室

4. 今後の予定

平成29年度 10月下旬~11月上旬 基本計画の策定
12月 基本計画及び基本設計(案)の議会報告
12月下旬 基本設計(案)の説明会・意見交換会
(年度内に基本設計・実施設計の作成)

平成30年度 公園再生整備着手

平成31年度 公園再生整備竣工

哲学堂公園再生整備基本計画(案)

再生整備の目標

井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元することを基本として、世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨くことにより、歴史・文化を活かした新たな都市観光拠点の核を形成する。

哲学堂公園の価値・魅力

- 哲学の概念を表した世界に類を見ない造園空間である
- グローバルズムの考え方や普遍的な生き方の指針が示されている
- 創設者井上円了の社会教育への思いが込められた精神修養的公園である

現在の公園は課題があり、価値・魅力を十分に活かすことができていない。

哲学堂公園の課題

- 精神修養の場として不明瞭（空間的に分かりづらい）
- 施設が老朽化、バリアフリー対応の遅れ
- 価値・魅力に見合った管理がなされていない（植栽の繁茂、園路の凸凹）
- 哲学をテーマとする77場とは性格の異なる施設・空間が混在する
- 哲学を十分説明できていない
- 多くの観光客を呼ぶ施設となっていない

価値・魅力の向上、課題の解決

哲学堂公園の再生整備のコンセプト

哲学堂公園の価値・魅力と課題を踏まえた、哲学堂公園再生整備のコンセプト

1. 哲学堂本来の価値を磨き、向上させる。

- ・世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨く
- ・井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元する

2. 観光資源としての価値を高める。

- ・井上円了没後100年(2019年)を契機として文化財的価値の向上を図る
- ・歴史・文化を活かした新たな都市観光拠点の核として整備する

哲学堂公園再生整備の方針

コンセプトに基づく哲学堂公園再生整備の方針を以下の通り設定する。

- ①哲学堂77場を中心にした独自性のある庭園としての整備
- ②哲学の概念を解り易く伝える空間・施設の整備
- ③哲学堂の本来価値・魅力を取り戻すための空間・施設の改善
- ④井上円了と哲学堂に関する知識の掘り下げと普及
- ⑤都市観光拠点の核となる国の名勝指定
- ⑥哲学に関する学習・体験の場・機会の提供と情報発信

主な整備項目

A. 77場の整備

- ◎名勝に指定されている歴史的文化遺産として、古建築物群等文化財の修復、保全、活用、園内の景観の回復保全及び眺望の確保を行う。
- ◎文化財的価値保存の観点から、修復・復元は「保存管理計画書」に基き行う。
- ◎井上円了の記した「哲学堂案内」に基づく77場の巡路の復元を行う。
- 回復（復元・修復）するもの
 - ・哲学堂77場：古建築物群、石造、地象、植物、空間
 - ・哲学堂77場を取り巻く景観：樹林、地形、水環境など
 - ・哲学堂77場からの眺望：斜面地からの眺望、哲学堂八景（サインにより、創建時の眺望を想起させる）
 - ・哲学堂77場の巡路：解説サインの改善による巡路の明確化

■整備スケジュール

年度	2018 (平成30年度)	2019 (平成31年度) (井上円了没後100年)	2020 (平成32年度)
公園再整備	管理事務所解体 事務所跡地整備		
学習展示施設整備	学習展示施設竣工		
国の名勝指定	意見具申		答申

▲ オリンピック・パラリンピック開催

B. 学習展示施設の整備

- ◎哲学堂公園の魅力を高め、哲学堂77場や円了哲学への理解増進等を促すための施設として、学習展示施設を整備する。
- ◎建替予定の管理事務所の機能も集約する。
- 学習展示施設整備の目的・ねらい
 - ・哲学堂公園に新たな魅力を付加する
 - ・哲学堂及び井上円了の思想を分かりやすく伝える
 - ・哲学の見方・考え方を分かりやすく伝える
 - ・歴史・文化に触れる機会を提供する

■導入する施設機能イメージ



E. 「哲学の庭」の活用

- ◎「哲学の庭」は良好な景観の維持と共に、解説や情報提供の充実により哲学堂公園全体の魅力向上を図る。
- ・作品の紹介や哲学堂との対比・共通点等を解説サインや学習展示施設のコーナーで情報提供を行う。

C. 公園施設の整備

- ◎哲学堂77場や学習展示施設の整備と連携し、空間的な調和を図り、哲学堂公園の価値・魅力を高めるため、施設の改修等を行う。
- ・周辺部は77場と調和した庭園区域として整備する
- ・入口部は風格あるアプローチを形成し、77場と運動施設との分離を図る
- ・運動施設については、スポーツ・健康づくりムーブメントの推進に向けて多様な活用を図るとともに、そのために必要となる施設の維持管理を行っていく。

D. ユニバーサルデザイン

- ◎施設利用の利便性を考慮し、文化財的価値の保存可能な範囲でユニバーサルデザインへの対応に取り組む

F. 情報提供・ソフト方策

- ◎解説サイン、学習展示施設を活用した情報提供、情報発信を行う。
- ・解説サインの改善によるモバイル機器対応など、情報提供力の強化を行う。
- ・哲学堂や哲学、歴史・文化観光などの情報発信基地とする。

＜文化財庭園ゾーン＞

A. 77場の整備

- ◇ 「保存管理計画」に基づく復元・修復を行う。
 - ・ 哲学堂 77 場の構成要素を復元・修復する。
 - ・ 哲学堂 77 場における景観を復元する。

C. 公園施設の整備

- ・ 劣化した舗装等の修復
- ・ 水系設備の機能回復による水質の改善
- ・ 景観を阻害する施設の樹木による遮蔽や意匠や材料による配慮措置

F. 情報提供・ソフト方策

- ◇ 哲学堂 77 場や井上円了の込めた想い、哲学を分かりやすく伝えるための整備
 - ・ 解説サインの充実
 - ・ 巡回ルート補助サインの設置 (案内板・誘導標)

＜アプローチゾーン＞

C. 公園施設の整備

- ◇ 入口から文化財庭園ゾーンへの誘導を行う。
- ◇ 文化財庭園と運動施設の空間分離の役割を果たす。
 - a. 正面口 : 公園のメインの動線としての風格を表す。文化財庭園ゾーン利用の動線と運動施設利用の動線を整理する。
 - b. 桜並木 : 施設利用のための整備、桜並木の景観整備

＜学習展示施設ゾーン＞



B. 学習展示施設の整備

- ◇ 現在駐車場、売店、児童遊園があるエリアに学習展示施設を新設する。
 - ・ 哲学堂公園としてのイメージに統調した建物とする。
 - ・ 現在の管理棟は撤去し機能を統合する。

C. 公園施設の整備

- ◇ 学習展示施設の周囲には駐車場や児童遊園など既存の機能を再配置し、加えて庭園や77場までのアプローチを配置する。
 - ・ アプローチ部は哲学堂 77 場への導入を演出する空間として整備する。

＜学習展示施設内の主な施設＞

紹介・展示	常設展示室/企画展示室/シアターゾーン/収蔵庫
教育・研修	セミナー室/図書保管・閲覧室
サービス・休憩	エントランス/売店/休憩スペース
管理・運営	トイレ/事務室/会議室/ロッカー室/倉庫など
運動施設利用	エントランス/更衣室/ロビー

＜周辺庭園ゾーン＞

C. 公園施設の整備

- a. さくら広場はサクラによる魅力を高めるとともに、四季を通じて楽しめる明るい空間とする。サクラの名所としての魅力をいっそう高める。
- b. つつじ園は丘上からの眺望を意識しながら、樹木整理と修景植栽の追加を行う。
- c. 菖蒲池は菖蒲をはじめとした植栽による水景の改善を行う。
- d. 梅林は良好な景観を維持する。

E. 「哲学の庭」の活用

- e. 「哲学の庭」は良好な景観を維持する。また、作品紹介や哲学堂との関連を説明する解説サインを設置する。



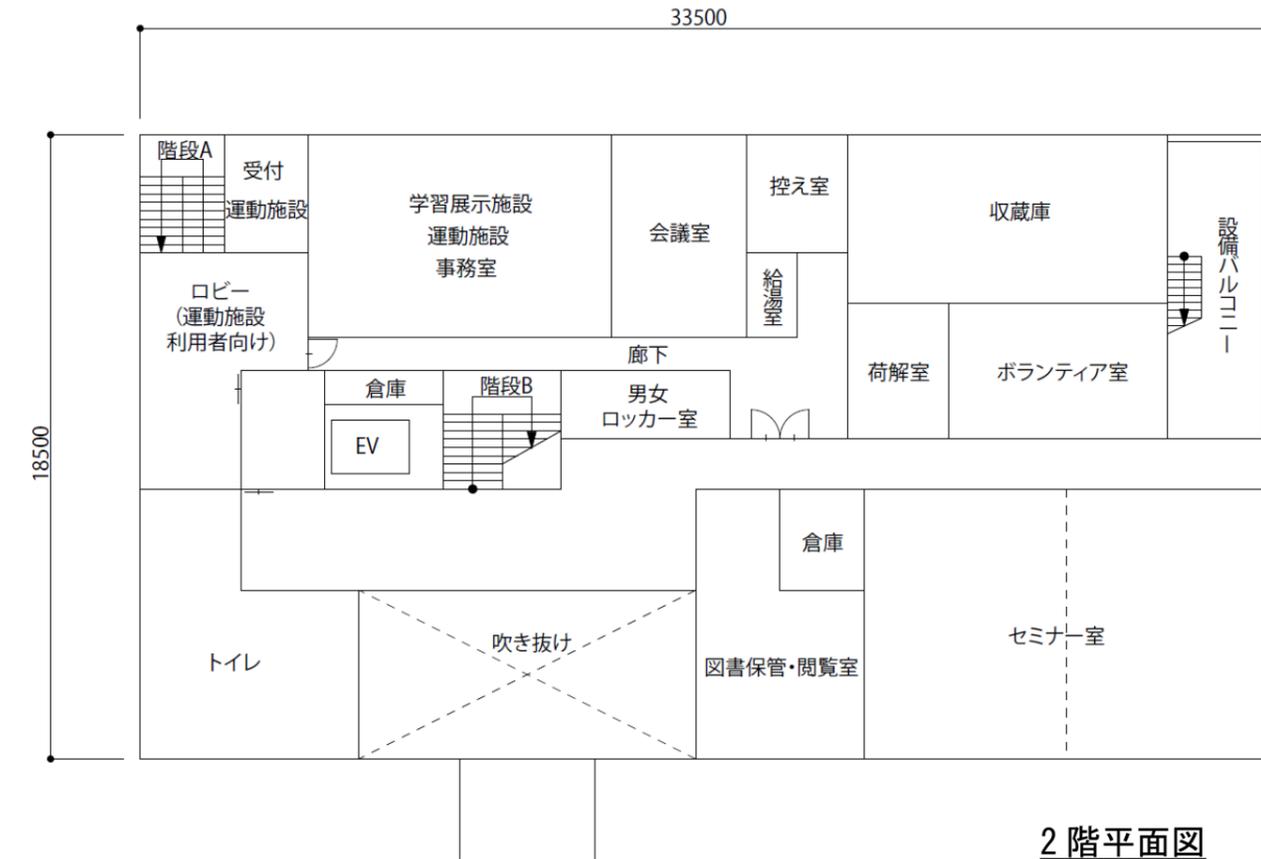
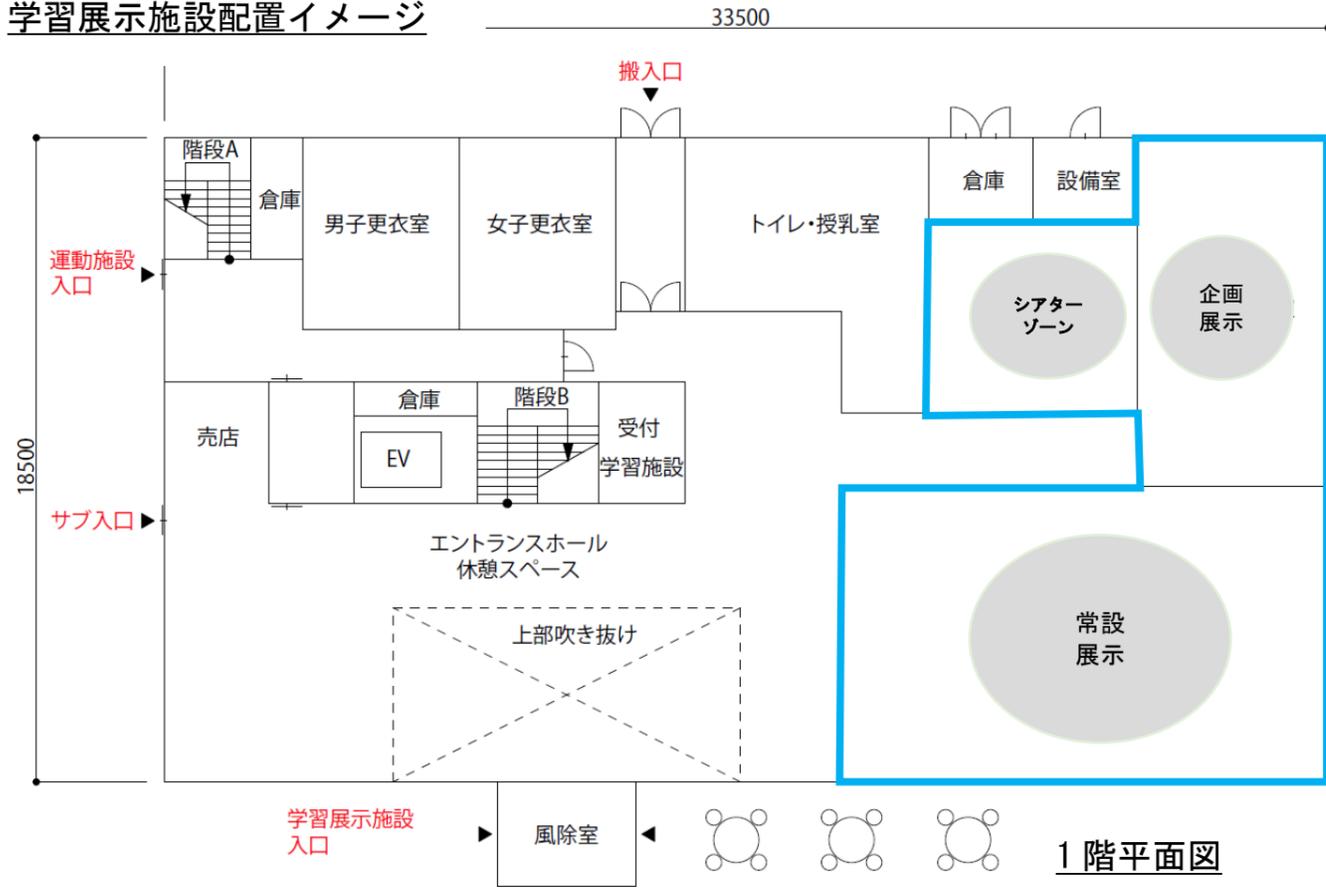
＜全体における整備＞

- 園路整備 (C、D)
 - ◇ 劣化した園路舗装や階段の改修
 - ・ 必要な箇所には手すりなどを設ける。(文化財庭園ゾーンにおいては文化財的価値の保全を優先する。)
- エントランス整備 (C、F)
 - ◇ 主要な入口において門柱や園名板などの設置、サイン整備、広場空間の整備
 - ・ 風格と哲学イメージ (テーマ性) の表現
 - ・ 案内板、解説板で哲学堂公園と哲学堂 77 場、井上円了について分かりやすく伝える。
 - ・ 利用者を園内へ誘うような空間を造る。
- その他の施設 (C、D)
 - ・ 劣化施設の改修
 - ・ 景観阻害施設の改修、配慮措置
 - ・ 樹木整理

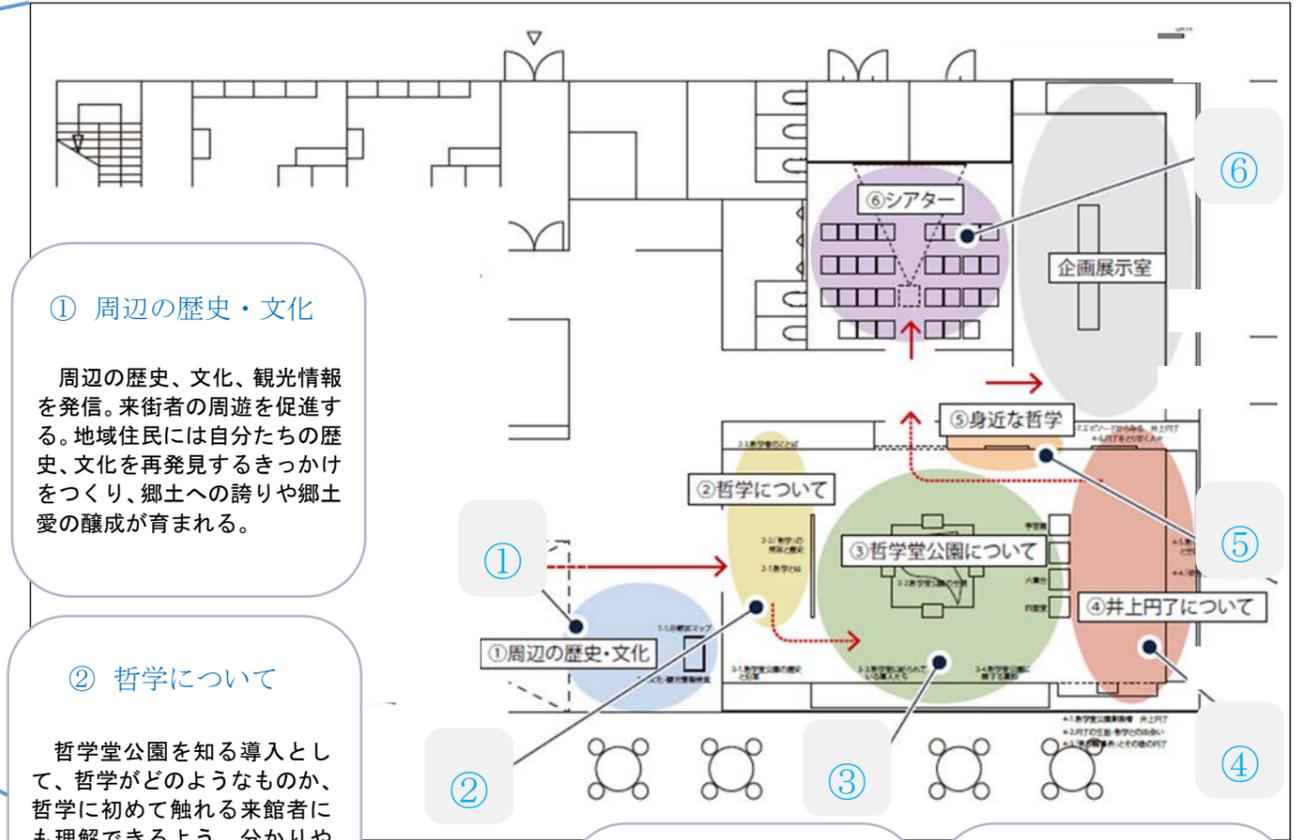
妙正寺川事業センター跡観光車両の駐車場として整備する

■学習展示施設基本計画（案）

学習展示施設配置イメージ



展示空間イメージ



① 周辺の歴史・文化

周辺の歴史、文化、観光情報を発信。来街者の周遊を促進する。地域住民には自分たちの歴史、文化を再発見するきっかけをつくり、郷土への誇りや郷土愛の醸成が育まれる。

② 哲学について

哲学堂公園を知る導入として、哲学がどのようなものか、哲学に初めて触れる来館者にも理解できるよう、分かりやすい解説を行う。

③ 哲学堂公園について

哲学をテーマとした世界に類を見ない公園であること、77場が表す意味、精神修養の場であること等を認識し、その価値・魅力を理解する。
また、「哲学の庭」の紹介、解説を行う。

④ 井上円了について

創設者井上円了の生涯と時代背景、思想を知り、哲学堂公園の存在意義や、現代の哲学にもつながる、ものの見かた・考え方を理解する。

⑤ 身近な哲学

生活のなかで活かせる哲学、身近なところにある哲学から、現代の哲学について分かりやすく紹介し、哲学に対する親近感を持たせることで、来館者が今後の生活を豊かにするため考え方を発見することを誘発する。

⑥ シアター

映像コンテンツによって哲学堂公園や井上円了、哲学についての一般的な解説を行い、展示内容の理解をサポートする。より充実した映像空間となるよう、コンテンツの追加が可能なシステムを構築する。

想定諸室規模

階	室名	面積	
1階	常設展示室	約120㎡	
	企画展示室	約60㎡	
	シアターゾーン	約30㎡	
	男女更衣室	約50㎡	
	売店・休憩スペース ・エントランスホール	約170㎡	
	その他	約190㎡	
	2階	収蔵庫・荷解室	約65㎡
		ボランティア室	約25㎡
セミナー室		約100㎡	
図書保管・閲覧室		約30㎡	
事務室		約55㎡	
ロビー (運動施設利用者向け)		約25㎡	
会議室		約25㎡	
控え室		約10㎡	
男女ロッカー		約10㎡	
給湯室		約5㎡	
その他		約190㎡	
合計	約1200㎡		